

大道中学校だより 10月号

平成30年10月19日

校長 永山泰士

TEL 781-2457 FAX 783-9719

有志竟成（ゆうし きょうせい）

教務主任 麻生 隆一

10月に入り今年のノーベル賞各賞の発表がありました。その中で日本人としてノーベル医学生理学賞を受賞したのが本庶 佑（ほんじょ たすく）・京都大学高等研究院特別教授です。がんの免疫療法につながる研究が評価されたということです。本庶さんの座右の銘が「有志竟成」で「強い志を持てば目的は必ず達成できる」という意味です。マスコミからのインタビューでは、「実験というのは失敗が当たり前で、一回一回のことでめげていたらだめ。たくさん種を蒔いてもそのうちのいくつから芽が出るかわからない。仮に芽が出たとしてもその中からいくつが実を結ぶかもわからない。それでも必ず道があるとの思いでやってきた。」と強調しています。これは基礎研究をする人がかなり減っており基礎研究に夢が持てなくなっている若い研究者への奮起を促すメッセージになっています。

このメッセージは私たちの心にも響くものがあるように思います。学校生活の様々な場面に置き換えて考えてみましょう。教科の学習をしてもうまくいかないとすぐに投げ出してしまうことはいないでしょうか。もう少し根気よく続けられたら目の前の壁を乗り越えられるのにとということも少なくありません。部活動のトレーニングや対外試合でも形に見えてこない成果にじれてしまう場面に遭遇します。でも「そんな悠長なことはいってられない、結果を出すのにスピードや効率を求められることもある。」これも十分理解できます。しかし、ここでお話ししているのは即効性を求める成果ではなく今から将来にわたって豊かな生活を導くための土台についてです。生徒だけではなく教職員にとっても大切なことだと思います。皆さんはどのように考えていますか？

今年も大道中学校では合唱コンクールが間近に迫ってきました。どの学年もそれぞれのクラスが真剣に練習に取り組んでいます。それこそ自分たちが発表する曲を繰り返し、繰り返し根気よく歌っています。それは同じことの繰り返しのようで実はそうではありません。指揮者や伴奏者、パートリーダーたちがリードしながら日々新たな発見をしているのです。音程が正確にとれるようになってきた、楽譜のリズムをしっかりとれるようにしよう、歌詞の意味を丁寧に感じて歌おう、など自分たちの力で着実に歩んでいます。時には「練習中にふざけている人がいます！」とか「もっとボリュームを出してほしいのに声が小さいです！」なんていう声が飛び交うこともあります。学級担任の先生はクラス全体を見渡してどんな声をかけようかと一生懸命です。たくさんの種を蒔き、次第にクラスが一丸となって本番のステージに向かって行く真摯な取組に、きっと明るい道が開かれるだろうと楽しみにしています。保護者、地域の皆様も大道中学校の合唱コンクールにお出かけください。10月29日（月）、横須賀市文化会館でお待ちしています。